

弘学館新聞

発行 新聞部

28年度高校総体



バスケットボール 16強

6月に行われた高校総体。各部のがんばりは速報でお伝えしたとおりですが、高校運動部の集大成であるこの大会を、新聞部も全力を挙げて取材

しました。運動部の熱い戦いを、紙面を通してここで再び味わってください。その他にも18歳選挙権など多彩な内容です。

バスケットボール 田中先生もニコニコ

1回戦 vs 北陵
弘学館は高2中心のメンバーでスタート。

試合開始から弘学館のペース。しかし、北陵の5番の3ポイントシュートがどんどん入って、追いつかれそうになり、「ヒヤヒヤしました」(富安主将)。が、弘学館も、バスケットカウントをたくさんとり、点数を重ねてじわりじわりと引き離していきます。

ベンチは、一人一人大きな声を出して応援します。二階は部員と保護者の応援で盛り上がっています。保護者の方々は自分の子供が出るのと特にごきげん(笑)後半に入ると、北陵は5番を激しいディフェンスで抑えられて点数がなかなか



伸びず…。一方、弘学館は絶対調！高3のメンバーも次々と投入し、シュートが決まるたび、田中先生もニコニコです。

最後は118対72で勝利！
(副島)

学館すげー！
2回戦 VS 塩田工業
なぐれもってこーい、なぐれもってこーいと呪いのような塩田工業の応援に、学館も、とれるかなととれるかなと応援します。

学館側には女子が多く応援に駆けつけ、応援の数でも声でも圧倒します！
ゴール下の小窓からのぞきこんで写真を撮っていた横畑先生と江口先輩が不審者のようで怖かったけど、私も人のこと言えなかったです。

前半戦から好調で、第1クォーターで20点以上の差をつけ、第二クォーターで30点、第四クォーターで40点と、好調に点差を広げていきます。最後は110

しみですわね！ (河野)
弘学館のバスケット部で本当に良かった！
富安謙介主将・松本優人副主将
「佐賀東に惜しくも負けてしまい、去年に続いてベスト16という結果に終わってしまいました。佐賀東は第1シードの強豪校ですが、終了のブザーが鳴るまであきらめることなくプレーでき、本当にいい試合だったと思います。」
「高3はもちろん、高2・高1のみんながいなければここまでできることもできませんでした。第2分団団長の山崎慶人くんがみんなをしっかりとめ、あらゆる場面で声を張り上げてくれました。」

ちなみに、惜しかったのが、私の靴が消え、後半をほとんど履けなかったこと…(泣) (七海)

来年が楽しみ！
3回戦 VS 佐賀東
総体2日目。3回戦は佐賀東との試合でした。佐賀東は今回の総体で県2位という強豪。それに対し、弘学館は来年のことを見据えた高1・高2中心のチーム編成で臨みました。結果は71対102で負けてしまいました。佐賀東から71点もとった学校は他にはないそう、善戦と言っている戦いぶりでした。来年が楽しみです。

柔道部 最後の戦い

柔道

6月3日に団体、4日に個人が基山町総合体育館で行われました。

というように、次々と倒され、押さえ込まれ、全敗。結果0-5で敗れました。宮崎「まあ、団体は相手が重い人ばかりだったので、明日頑張ります。」

が出場しました。3人ともしも勢い込んで試合に臨みましたが、いずれも一本負け。柔道部最後の大会は、こうして終わりました。

「やはり強かったです」

翌日の個人戦、柔道部は「団体より個人戦が自慢だった」そう、前日よりも気合が入っていました。66キロ級に金子恭介、中原泰貴、73キロ級に宮崎正圭

試合後、最後の柔道部員である高3の金子、中原、宮崎に聞きました。「個人戦でそれぞれ戦ってみてどうでしたか？」



金子「相手は下級生だったので、勝てるかなと思っただけで、オーラで圧倒されました。組んでみてやはり強かったです。」
中原「相手がベスト4の選手だったので、組んだ瞬間『強い』とすぐにわかりました」
宮崎「見た目勝てそうだったけど、一瞬の隙に技をかけたので、『やられた』と思いました。部員が少なかつたので、あらゆるタイプとの試合ができてなかつたので、もう少し部員が欲しかったです。」

今年、柔道部は最後の総体出場ですが…
三人「まあ、残念だけど仕方ないかな」
「今後、柔道は続けますか？」
金子「できればしたくない(笑)」
中原「します！大学でもするつもりです。」
宮崎「わかりません…」

「集中できていなかったシーンがあったが、それでも3年生が全員得点を入れることができたことがうれしい。下級生が主力のチームだったが、3

田中房義先生
「集中できていなかったシーンがあったが、それでも3年生が全員得点を入れることができたことがうれしい。下級生が主力のチームだったが、3

入場行進 3年ぶり優秀賞

これは競技なのか…

入場行進。これは競技なのか…。メンパーに選ばれたとき「この暑い中、歩くのか。しかもなんで僕？」と疑問と絶望を感じた。そして練習が始まった。イチ、ニと掛け声をかけながらただひたすら左、右の順に足を上げる作業を繰り返した。15分程度の練習だが、終わったときには、いっつも汗をびしょりかいていた。

本番の日が来た。総合グラウンドについて周りを見渡すと、ソフトボール部、ラグビー部、相撲部…。果たして文化部・婦祭部ばかりを集めた弘学館は競り合えるのか。

不安な気持ちのままトラックに入った。先に行進を始めた学校の掛け声・吹奏楽部の演奏が鳴り響いている。負けたくないように必死に掛け声をだし、前の人の頭に視線を集中させて、できるだけ

足を高く上げるよう意識しながら夢中で足を動かした。観客席など一切気にならなかった。

あつという間に行進が終わった。僕は旗揚げのミスをしたので、自分のせいではなかと気が気でなく、他校の人のミスを見ては、たびたび安心した。

結果発表。最優秀3校に弘学館の名はなかった。心臓の鼓動が激しくなる。そして入賞校。「…高校。弘学館高校。」ほっとした。でも同時にやはり思うのだった。「入場行進。これは本当に競技なのか。」

新しいパフォーマンスのおかげ



↑練習のいかいあって、堂々たる学館の入場行進。
←これが最優秀賞の入場行進だ！佐賀女子高校ソフトボール部の一糸乱れぬ足並みを見よ。

男子卓球初戦突破

男子卓球
「よっ、よっ、よっ！」
1試合目は神崎清明と対戦。

相手チームは4人しかおらず、少なっ、これなら勝てそう！と思った。前川元志主将も「特に勝たないといけないと思ひ臨んだ」1回戦。

点を取ることに「よっ、よっ、よっ」的な掛け声で盛り上がる。シングルスで前川、池田貴一さんが勝って、よいいけるぞと思った。ダブルスで相手が粘り、前川・辻将太ペアで負けてしまった。

「意外と相手校の選手が強くて、ちょっと怖くなった。」

た。(前川主将)
ここで高2の高田侑希さんが登場。サーブ時の力強い足音が迫力があり、きつと相手は威圧されたことであろう。見事に勝って、2回戦進出を決めた。

「ちょっと上がってしまっただけでもあったけど、今まで一番良い試合ができたと思う。」(同)

強豪佐賀西に挑んだ2回戦。激しい打ち合いで、見ているこっちまで球がめっちゃ飛んできた。敗れはしたものの、

「当たって砕ける的に緊張せずにぶつかることができた。」(同)

前川主将、後輩に一言お願いします。

「僕たちの結果を超えるよう、仲良く毎日頑張ってください。」(総頭)



女子卓球
「私たちが最後です、入ってください！」
卓球の会場、鎮西スポーツセンターまでの道のりは長かった。しかも、周りには森以外に何もなかった…。こんなところでやるのか？弘学館並みじゃないか…。と言いつつ会場に入ると、熱気と掛け声がすごい！そして選手の機敏な動き！(あんな機敏な選手に眼鏡率高いなあと思つて)

「できるだけ多く言いたいので、細かく言いますね(笑) 団体はダブルスで1勝しました。そして、石井涼香が2セットを取り、飯盛日奈子が1セット取りました。個人戦では、中山友紀子がぎりぎり粘って1勝しました。(17-15だったんだとか)」

「試合中はすごい緊張したけど、いろんな人が応援してくれて、聞きなれた声を聞いて安心したし、おかげでプレッシャーの中でも平常心でいられたと思います。」

「最後まで粘れたところはよかったかなって思います。みんなが、サーブのコースなど自分らしいプレーができたと思います。守りに入りがちだったけど、攻めの姿勢は忘れませんでした。よくなかったところは、焦った時にオーパーが多くて！無駄な失点をたくさんしちゃいました。」

「今までもずっとやってきた3人だけだったら、きっと試合前のあいさつの時点でひるんだと思うのですが、総体の少し前に経験者が3人加わってくれたおかげで、6人で挑むことができ、強気に試合に臨むことができました。それでもやっぱり相手は強かったです。」

「最後に…高校卓球部には後輩がいまません。私たちが最後でした。なのでぜひ卓球部に入ってください！」(江口)



バレーボール

「勝てると思っていました」
6月3日、鹿島高校でバレーボールの試合が行われ、弘学館は1回戦で見事に勝利を挙げました。

総体後、森登主将に話を聞きました。

「総体を振り返ってどうですか？」

「お世話になってる先生や保護者の前で勝つことができてよかったです。」

「1回戦を突破して満足ですか？」

「全然…。もっと勝ち進みたかったです。」

「1回戦の相手は龍谷高校でしたが、勝てると思っていましたか？」

「はい！思っていました！」

その1回戦。第1セットは、相手のミスに助け

バレー初戦突破

られながらも、用松考陽さんの活躍で、25-19で勝ち取りました。

第2セットは接戦になりました。しかし木村駿介さんが相手エースのアタックをブロックし、そこから波に乗り始めます。さらに用松さんのサーブとスパイクで試合を有利に進め、25-23で、見事に回戦を勝ちました。

生徒は応援に来られませんでした。お母さんたちの大きな声援もすごかったです。(笑)

「勝因は？」

「苦しかった時でも用松君がスパイクをきめ、チー

「先入観にとらわれて最初はびびっていたけれど、タイムアウトの時に百原先生に言われて切り替えることができました。」

「練習量の差です」

2回戦は鳥栖高校との試合です。

「鳥栖は正直強かったんですけど、ボールをなかなか落とさず、粘り強かったです。練習量の差だと思ひ知らされました。」

第1セットはスパイクミスもあり、相手のサー

「野村(政嘉)君がミラクルを起こしてバスケゴールにシュートを決めたり、フェンスにスッポリボールがはまったりという笑話も(笑) 試合後に佐賀新聞から取材を受け、『明日の新聞に写真を使うかもしれませんが、われたさうですが、載ったのかなあ…』(笑)

お世話になった先生、保護者の方々に応援に来てもらい、勝つことができました。良かったです。

後輩たちには2回戦、3回戦へと勝ち進んでほしいです！」(川浪)





一勝しました!

女子テニス部

6月3日(5日)に森林公園で試合が行われました。初日は快晴で真夏のような暑さとなったものの、2日目はあいにくの雨となりました。

初日の団体戦、初戦は神崎清明でした。接戦となり厳しい場面も見られましたが、高2の必死な応援が伝わったのか徐々にリードし始め、見事に勝ちました。

そして2回戦は佐賀商業第2シードの強豪校。…うん、強かった。テニス未経験の私でも分かるくらい強かったです。だけど弘学館の応援めっちゃ良かったです! 4人しかいなかったけど、声出てたしバリエーション豊富だし必死さがすごく伝わってきました!

選手のお母さんたちの応援もすごかった(笑)

個人戦は、シングルスで清水美帆、田中晴菜がそれぞれ1勝。ダブルスで清水・田中ペアと新井優香・櫻井英里(高2)が1勝しました。

個人の2回戦、主将の清水さんの試合のときは天候が悪く大雨だったそう。「清水のメカネが雨に濡れ

てボールが見えなくて可哀想だった。」(加賀先生)という声も。しかし清水主将は「負け惜しみになるから」とそのことには触れませんでした。

川原三奈先生
「本当によくここまで成長したなあ、と。自分たちがテニスに向かっていく姿、試合中の周りの応援を感じ取る姿はかっこ良かった。」

「終わった気がしなかった」
☆主将の清水さんにインタビューしました。

「試合中の気持ちは?」
「何も考えられなかった。最初は緊張してたけど、戦後とかベンチに晴菜がいてくれたおかげで緊張ほぐれた!」

「試合が終わった時の気持ちは?」
「終わった気がしなかった(笑)。最後の試合が晴菜とダブルスだったんだけど、負けただけで0-4から4-6まで巻き返したから、悔しいとは思わなかった!」

「後輩に一言どうぞ!」
「新チームになって仲良く、キャプテン・副キャプテンを中心に頑張ってください。」 (河野)

男子テニス

「あの時もど打ち込めていたら…」
電車に揺られること1時間、そして駅から何もない川辺を歩くこと15分。やっと試合会場、唐津の松浦河原公園に着きました。

会場に行くときさまざまなユニフォームの高校生がいて、弘学館の選手を見つけてるのは大変でした。

昨年は佐賀県3位というすばらしい成績を残した男子テニス部。今年は「団結」を掲げ、昨年の結果に恥じないように、練習に励んできました。選手たちは、暑い日差しが照り付ける中、真剣な眼差しで全員で集まっ



リードされた2戦目は、より張り詰めた雰囲気になりました。シングルス・松尾友希選手はラリーが長く続くなど互角な戦いでした。しかし、相手のスマッシュなどで点を取られ、敗れました。

3戦目は鳥取靖也選手。彼は学館で出場する唯一の2年生です。サーブで点をとりませんが、相手も負けじとスマッシュを打ってきま

す。鳥取選手が点を取るたびに応援の声も大きくなっていきます。最後まで粘りますが、6-4で敗れてしまいました。「悔いは残りませんが、課題を見つけていきます。課題を見つけていくことができたと思います。」 (鳥取)

試合後、副主将の松尾、碓井健太郎さんにお話を伺いました。

松尾「正直、今は悔しいという思いがすごく強くて、不完全燃焼ですね。」

碓井「自分ではちゃんとしているつもりでしたが、あの時もど打ち込めていたから、そう思ってしまう。」

「後輩へ伝えたいことは?」
松尾「当たり前だけど、時間は限られている。だからこそ毎日の練習、一試合一試合を大切にしたいですね。」

碓井「とにかく悔いの残らないように。あと、挨拶・礼儀は県内1位であってほしいです。」 (合島・八塚)

対戦相手は唐津南高校。地の利は向こうにあるはずですが、応援の人数とバリエーションでは圧倒的に学館がよかったです。

ダブルスは藤川大・奥村雄樹(高1)ペア。最初というところで緊張していたのか、サーブなどのミスが続いてリードされてしまいましたが、フェンス越しの応援の声をばねに頑張ります。最後の最後まで戦っていました。最後は負けてしまいました。



初めて勝てた!

女子剣道

女子剣道は佐賀商業と対戦し、見事1回戦を突破しました。高校総体での団体戦初勝利です! 佐藤庸主将に試合を振り返ってもらいました。

「団体戦では、相手が3人なので、既にこちらに不戦勝が2つあって、かなり有利な状態からのスタートでした。先鋒白川しおり(高2)が6分間粘って、引き分けてくれました。中堅の田中希美(高2)が一本負けしましたが、一本で抑えてくれたので、大将戦で二本とられても1回戦は勝てたので、リラックスできました。2回戦の白石戦は完敗でしたが全員がすべての力を出し切ったという感じでした。試合ができました。」

「個人戦には高3の田中利佐子、佐藤が出場しました。田中は惜しくも負けてしまいましたが、私は何とか延長戦で1回戦を突破することができました。中1から剣道を始めて、初めて勝つことができたので嬉しかったです。2回戦の相手はベスト4だったので強かったです。」

「みんなに支えてもらいなからやってこれた一年だった! やりがいもあり、視野を広くもつことができ、良い経験をさせて頂いたと思います。」

「剣道部のみんなへ一言!」
「みんなと一緒に剣道ができて、本当に楽しく、良い思い出が出来た。来年の総体では、この悔しさを忘れず、一勝でも多く勝ち進んでね!」

「私自身、今まで見た総体で一番感動しました。試合後は悔し涙を流す主将や部員たちを見て、私も涙を堪えるのに必死でした。剣道部の団結力は凄い! 毎日のももきつい練習も頑張っていて、その成果が出せたと思います。観に行くまでまったくルールも知らなかった剣道でしたが、試合会場の雰囲気や剣道部の皆さんの温かさでもっとも楽しむことができました。」

もちろん行きます!! (堀)

岩永彩子先生
「言うことなし! というのは冗談ですが、よく頑張ってくれたと思います。佐藤と田中の高3二人がチームをまとめてくれた。今まで一番良いチームでした。」 (男子)

「持っている力を十分に発揮することができなかったのが残念でした。でも、3年生らしい試合をしてください! 来年が楽しみですね。」



▲先鋒中村太一、胴で一本を決める!

「1回戦で勝てたときみんなが喜んでくれてうれしかったです。」

「今回の団体戦でもわかったと思うけど、今回は先鋒が引き分けて中堅が一本負けで、だから勝てました。チームというのはそういうもので、みんなが勝つものだから、今までよりさらに良いチームを作ってほしい! 最後に今まで支えてくれた仲間たち、先生方、本当にありがとうございました!」 (上坂)

男子剣道
「剣道をやったよかった」
剣道は佐賀市南部の諸富文化体育館で試合が行われました。剣道部のお母様方も応援してください。

「剣道を終えての感想をお願いします。」
「相手は強豪でしたが、どうでしたか?」
「同級の(中村)太一、後輩3人が必死に頑張ってくれました。負けたのはとても悔しいけど、自分の中では記憶に残る試合でした。」

「主将を終えての感想をお願いします。」

陸上 陸上競技部が優勝した

6月3日から5日の3日間、総合グラウンドに通い、(去年中川恒先輩が着れなかった)メッシュのピラミッドを身につけて、フィードで陸上競技の取材をしてきました。今年は(個人的にも)今までは一味違う高総体となりました。

まず第一に、近年噂になっていた、あの『盗撮おじさん』が捕まったんです！なんでも、『盗撮おじさん』



総合グラウンドで盗撮おじさん(盗撮者、容疑で男盗撮)

は長髪で年齢不詳、ビデオカメラを手に、約10年間も陸上や水泳の女の子の姿を盗撮していたそうです。佐賀新聞(6月5日付け)によると、3日に警告を受け、ビデオカメラ3台(1)を手に隣の水泳会場を撮影しているところを捕まったのが4日の朝。「悪いことはしていない」と容疑を否認しているとか。なのに！今年の撮影許可はすくなく、去年までのようなく、去年までのような「親でも新聞部でも、事前の許可願提出が必要」なんでも必要なく、「無許可撮影禁止」の看板だけ。「じゃあ、だれでも写真撮れるじゃん！」みたいな(笑)もちろん私はちゃん



高3の池田怜さんが800mで準決勝進出、高1の川崎舞子さんが1000m、2000mで準決勝進出、と

と許可をもらってフィールドに入りましたよ。そして……！皆さんお待ちかねの、結果！高3の池田怜さんが800mで準決勝進出、高1の川崎舞子さんが1000m、2000mで準決勝進出、と



いた日高校のM君が「俺、セツタイ1位やん(笑)って言うって、「どうなるかなん」とか思ってたら本当に(予選で)1位取って驚きでした！有言実行(笑)ほかに、かわいくて、ずば抜けて足が速い子とかたくさんいました！完璧人間……！

高3の私にとっては最後の高総体。新聞部の先輩がいきなり消えたり、Y先生が寮に遅れの連絡をしていなくて寮監にめっちゃ怒られたりしたけど、楽しかったから結果オーライ(笑)6年間で一番働いて、面白い高総体取材が出来ました！(香月)

サッカー 県1位相手に力を発揮

6月3日に佐賀北高校で試合が行われました。初戦から県1位の強豪校である佐賀北高校と戦った弘学館。結果は0-6になりましたが、最後まで諦めず戦っていた姿が見られました。

主将の加来千敏さんにインタビューしました。

「試合前のチームの雰囲気は、どうでしたか？」

「一回戦の相手が佐賀北高校に決まった時、県一位というチームバリエーションに押され、チーム全体に不安な雰囲気が漂っていましたが、それぞれがすぐに気持ちを切り替えて、総体までの2週間本気で練習に臨めたので、試合が近づくと、チーム全



力が発揮してくれました。体が勝ちにいくという雰囲気に変わっていききました。

「試合は、とにかくやりましたか？」

「試合は、とにかくやりました。特に進瑞樹は、1対1の決定機は惜しくも外したけどチームで一番走ってくれたし、サイドのディフェンスはだいぶ助けられました。」

「今まで経験した試合の中で一番終わるのが早く感じました。それだけ集中出来ていたということだし、頑張りぬいての敗戦だったので悔いはないです。」

「後輩とか、めっちゃ泣いた人とかもいて、その悔しさを自分たちの代で生かしてほしい。そして、井上先生、久保平先生、応援団を含め一緒に最後まで戦ってくれた仲間たち、暑い中応援に来てくださった先生方や保護者、生徒の皆さん本当にありがとうございます。」

(矢野)

井上和孝先生

「佐賀北相手にとにかく頑張ろうと思った。高3は気分が少し下がるかなと思っていたが、そのようなく、試合まで一杯やってくれた。」

「前半0-1ぐらいに抑えるつもりだったが、3点とられてしまった。けれど、選手には諦めの様子はなく、後半も勝ちに行こうとする姿が見えた。優勝候補からとにかく1点を取ろうと最後まで頑張ってくれた。」

「最後まで素晴らしいプレイをしてくれた。高3生は受験に向けてしっかりと気持ちを切り替え、現役合格という目標を達成してほしい。彼らならできると信じています。」

優勝しました！

ボクシング 2時から試合と聞いて1時半に試合会場に行ったらもう終わってた。(笑)その時の様子を、弘学館からたった一人のボクシング選手として総体に出た豊田真之君にインタビューしました。

「2時から試合じゃなかったんですか(怒)？」

「それぐらいになると思ってたから、いきなり順番が代わって(焦)」

「今回の試合の結果を教えてください。」

「優勝しました。昨年は準優勝だったので九州大会ではBリーグだったのですが、今年はAリーグで行けるので嬉しいです。」

「おめでとうございます！あれ？でも、午後からの試合で負けたと言っていましたよね？」

「あ、それはスパarringというもので、それでは負けました。でも、事実上は優勝なので、九州大会に行きます！」

「スパarringって、なんですか？」

「まあ、練習試合みたいなものです。僕は一番上の階級で、同じ階級の人他にいないので、優勝なんです。流石に何も試合しないのはためなので、実力を図るための試合です。」

「実力はあると判断されたんですね！」

「そうですね。相手は、高志館高校の3年生で、階級は僕より一つ下でした。軽い分スピードもありました。僕は勝ったと思っていましたが、27対30で負けました。手数が少なかったかなと思います。」

「採点競技は難しいですね。ところで、九州大会はどこであるんですか？」

いた日高校のM君が「俺、セツタイ1位やん(笑)って言うって、「どうなるかなん」とか思ってたら本当に(予選で)1位取って驚きでした！有言実行(笑)ほかに、かわいくて、ずば抜けて足が速い子とかたくさんいました！完璧人間……！

高3の私にとっては最後の高総体。新聞部の先輩がいきなり消えたり、Y先生が寮に遅れの連絡をしていなくて寮監にめっちゃ怒られたりしたけど、楽しかったから結果オーライ(笑)6年間で一番働いて、面白い高総体取材が出来ました！(香月)



総合グラウンド競技 総合グラウンド周辺では、弘学館にはないたくさんの競技が行われていました！その中のラクビーと弓道は、残念ながら、中には入れてもらえませんでした。でも、すっごく静かで、「日本の武道」という厳肅な雰囲気で行われていました。

他にも、相撲やフェンシングなど面白そうな競技がたくさんありました。弘学館にもこんないろいろの部活があったら面白そうだな！と思いました。(嘉村)

「沖縄です！」

「いいですねー！負けたら、残り時間はビーチで過ごそうと？(笑)」

「いえいえ(笑)勝って、観光しないで帰ってきます(笑)」

「健康を祈ります！そうですね、部活ではないので、会場では一人でしたよね？寂しくなかったですか？」

「正直寂しかったです。(笑)でも家族が応援に来ました！」

「九州大会の模様は速報でお伝えしました。全国大会は新聞部と同時期に広島でありますけど、取材行けるかな？」(嘉村)

九州大会も優勝！

NHKにも取材されました

さらば柔道部



伝統を誇る柔道部がなくなり、なりました。長年顧問を務められた池田先生は、どうなるのか、また柔道場はどうなるのでしょうか。池田先生に直撃しました。

輝かしい実績

「これまでの弘学館柔道部の実績を教えてください。」

池田「7回生(森永先生の代)の時に初めて市中学生連の新人戦に優勝しました。森永先生はとも強く、彼が中学生の時には個人戦で県2位になりました。」

「その後も、10・12・14回生のときは高総体団体ベスト8、17回生は総体の個人戦3位以上に、3階級で4人が入りました。」

「輝かしい実績ですね。試合だけでなく、柔道部は進学実績でも、東京大学や医学部などに大勢進学していると同様です。ところで池田先生ご自身は、いつ柔道始められましたか？」

池田「中学1年の終わりに始めました。実はそれまでは野球部でしたが、担任の先生が柔道部の顧問で、頻りに勧誘されて、結構断ったのですが、最後は入ることになりました。」

小城高校3年の時団体で総体優勝し、個人では高2の時、県代表に選ばれ、団体に出場しました。佐賀大に進学してからも続け、開校2年目だった弘学館に赴任してから、選手をやめ、指導に専念しました。」

勝つことは難しいですね

「今年の柔道部、部員3人でギリギリとした試合ができたか、心配ではありませんでしたか？」

池田「はじめは確かに心配しましたが、1月の試合では健闘していたので安心しました。総体の団体戦は、確かに階級差があったので無理があったのは仕方なかったけど、個人戦は正直早かったな。」

たな。勝つことは難しいですね。」

「確かに残念ですが、これで柔道部がなくなりませんでしたね。残念ではありませんか？」

池田「確かに残念ですが、近年柔道をしたという人が減っていたのは事実です。以前弘学館でも授業で柔道をしてきた時、鎖骨を折った生徒が出たりして、危険だというのは否めませんから、仕方ないです。」

「入部希望者はいないわけではなかったそうですが？」

池田「うん、まあそうですね。上級生が下級生をきちんと指導していくという部活のあるべき形が維持できなくなっていたわけですから、わずかな人数で続けることはできません。かえって危険です。」

「今後先生はこの顧問になりますか？」

池田「バレー部です。百原

先生がこれから高3生の受験のために忙しくなるので、精一杯バレー部をサポートしていきます。」

「この柔道場は？」

池田「今はこうして私が柔道着などの整理をしています。(月足)

すけど、筋トレとかのために使いたいという声もありませんし。」

池田先生、やはり寂しそうですね。でも僕たち、柔道部のことには決して忘れません。(月足)

あの頃があるから今がある

江島徳政(24回生東京大学2年)

「柔道部が無くなる。」噂には聞いていましたが、いざ現実になると想像以上寂しいです。

入部したのは、中1の時。体が大きかったため、先輩から強く誘われたのがきっかけでした(笑)。

ぶっちゃけ華がある部活かと言われる返答に困ります(笑)。体と体を直にぶつけ合う泥臭い競技です。怪我も少なくはありません。正直きつかったです。

ですが、そんな部活だけに部員の上下間や同期間の仲は非常に良かったんです。卒業した今でも、「瞬でタイムスリップし、当時の喜怒哀楽を語り明かします。また柔道部は伝統的に合格実績が高いということが、誇りでもありました。学年を跨いで文武ともに切磋琢磨しあったあの頃がとても懐かしいです。

パッと浮かぶ思い出は、キツイ練習が終わったあとのキンキンに冷えたコーラですね(笑)。それとも、まるで戦地に赴く兵隊のように憂鬱な気持ちで向

どうなる日本の国技？

柔道部の廃部：残念なことですが、しかし、これは、本校だけの問題なのではないでしょうか？

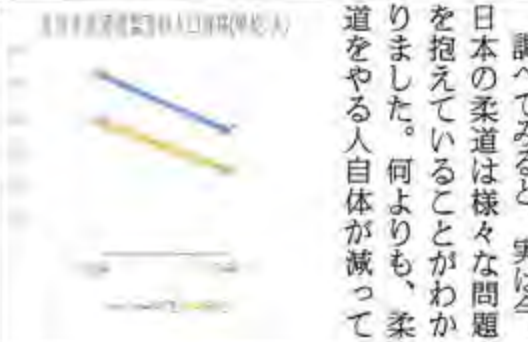
調べてみると、実は今、日本の柔道は様々な問題を抱えていることがわかりました。何よりも、柔道をやめる人自体が減っているのです。(クラブ上)

今年の佐賀県の高校総体では、柔道は15校しか出場していません。しかもその現状が伺えますね。ちなみに一番多いバスケットが42校、剣道も31校出場しています。

ちなみにフランスの柔道人口は60万人ほどいるそう、日本のざっと3倍とか。

なぜ柔道人口が減っているのでしょうか？

まず挙げられるのは、



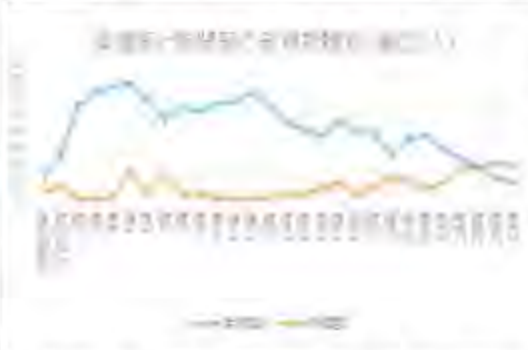
「危険」ということによるのです。スポーツに事故はつきものですが、単に「事故」と言っても、軽度なものから重度なものまで様々あり、重度なものになると、死んでしまうことも。実際に1983〜2011年の間に一一八人、毎年4人以上の中高生が学校内の柔道事故で亡くなっていたという調査も。(「柔道事故被害者の会」HPより)

二つ目は、スポーツの

種類が増えたこと。柔道の誕生は明治15年ですが、今では数えきれない程のスポーツがあって、子供たちの選択肢が増えました。しかもその子供全体の数は少子化で減っているわけですね。

三つ目は、皆さんは、「柔道といえば、この選手！」と、すぐに思い浮かぶ選手はいませんか？なかなか思い浮かびませんよね。「あの人が憧れて柔道始めた」といえるようなスターが今、いないということですね。

このような全国的な柔道人口の減少が我が校にも及んだ結果が、今回の柔道部の廃部だということとがわかりました。学校の資料を調べてみると、最盛期には中高併せて70人近くいた柔道部員の数は、平成20年度以降特に減っていることがわかります。(クラブ下。比較対象はなぜか新聞部笑)



ではこのような状況は、柔道だけなのではないでしょうか？

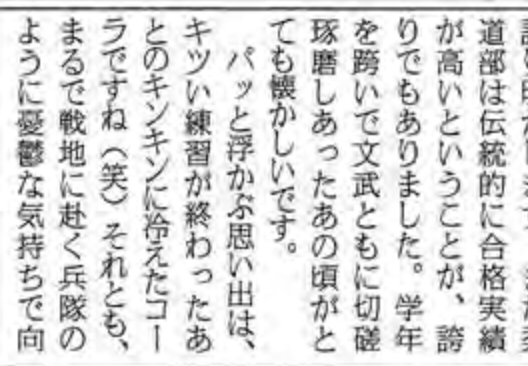
今どき、相撲やる人っているのかな？って疑問がなぜか浮かんでくるので、ついでに調べてみました。すると今年の佐賀県の高校総体では、出場校はたったの2校(多久と唐津青翔)、出場選手は9人！(なのになぜか、役員が52人！役員が出場者の約5倍以上いる。)

柔道も相撲も日本の「国技」と言われるスポーツですが、このように危機的状況にあります。日本の伝統はどうなっているのでしょうか。(毛利)

多くのことを学びました。多くのことを学びました。多くのことを学びました。

「挑戦する尊厳」逃げない「学館生としての誇り」

「人を敬う心」：受験で折れそうなき、あの合回練習を思い出しては、何度も乗り越えてきました。あの頃があるから今がある。学館柔道部の日々は、これまでも、そしてこれからも、僕を支えてくれる大切な宝物です。池田先生、ありがとうございました。お疲れさまでした。



最後に天が見方してくれたのです！

ww

学館柔道には柔道という競技を越えて、